

子どもの本だな 79

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

パンやのくまさん

フィービとセルビ・ウォージントン さく・エ
まさき りこ やく (福音館書店)

あるところに、パンやのくまさんが住んでいました。くまさんは、毎朝とても早く起きます。かまどに火をかけ、エプロンをして、どさっどさっどさっ！と生地をこね、パンやパイやケーキを作ります。全部焼きあがると、半分を店に並べ、あとの半分を車につみ込んで出かけます。車を止め、がらんがらんがらん！と鐘を鳴らすと、近所の人たちがパンを買いにきます。それからくまさんは、お誕生日パーティーの家へケーキを届けたり、店に帰っておみせばんをしたりします。パンが全部売れて店を閉めると、くまさんは、木苺のジャムをぬったマフィンとゼリーを晩ごはんを食べ、お金を貯金箱にしまい、2階の小さなベッドでぐっすり眠りました。

パン屋で働くくまさんの1日のお話。暖かみのある落ち着いた色合いの絵は細部まで丁寧に描かれ、素朴なお話に合っています。読んでもらえば3歳くらいから。(池之上)

銀のうでのオットー

ハワード・パイル 作・画 渡辺 茂男 訳
(童話館出版)

コンラッド男爵の息子オットーは、生まれてすぐに母を亡くし、僧院で育てられました。優しく物静かな少年に成長したオットーは、12歳になる頃に父親のもとで暮らすことになりま。ある時、コンラッドの留守中攻め入ったヘンリー男爵に、オットーは人質として連れ去られました。忠臣ハンスによって、オットーは救出されますが、無残にも片腕を切り落とされていました。逃げる一行をヘンリーと騎士たちが追ってきましたが、コンラッドが橋上に立ちふさがり、大剣を振り回して迎え撃ちます。コンラッドは激闘の末、ヘンリーを道ずれに橋から川へ身を投げました。

暗黒時代と呼ばれた中世に生きるオットー少年と、彼を取り巻く人々の物語です。無秩序で残酷な世界の中でも、優しくあり続けたオットーと、少年を巡る大人たちの苛烈な奮闘が、力強い文章で描かれています。11歳から。(光藤)

6月	7月	6・7月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
11日	2日	塚森 地域内 10:30~ 10:50	沖代 地域内 11:00~ 11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
18日	9日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
25日	16日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

<お知らせ>

新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、当面の間、館内での行事を中止します。

下記の行事も中止です。再開日は未定です。決まり次第お知らせします。

- ・「おはなしの時間」
- ・「絵本の時間」
- ・えほん・おはなし
スタンプラリー



『炎の中の図書館 110万冊を焼いた大火』 スーザン・オーリアン 著

羽田 詩津子 訳

早川書房

382 頁

2019 年 11 月刊

2,600 円

(請求記号) 016.2

1986年4月29日、ロサンゼルス中央図書館で40万冊を焼き70万冊を損傷する大火災が発生した。その3日前、チェルノブイリ原子力発電所の事故があり、図書館の火災の記事は米国でさえ小さな扱いだった。30年後、ロサンゼルスに移り住んだ著者は図書館見学に行った際、はじめて火災のことを知った。驚きと、幼い頃からの図書館への愛着が、火災の詳細と図書館の歴史の調査へと向かわせた。

ロサンゼルスでは1926年に100万冊所蔵の本格的な図書館ができ、どんどん大きくなる都市と比例し蔵書冊数も多くなっていく。何度か改築したが抜本的な改革なしに60年がすぎ、火災当時の蔵書は200万冊を超えていた。その日、図書館の奥の保管庫から煙が上がり始める。駆け付けた消防士は潜り込んで消火しようとしたが、保管庫にぎっしりと詰め込まれた本は次々に炎に飲み込まれていった。

一方、図書館の歴史は1873年から始まる。鉄鋼王カーネギーの図書館建築プロジェクトや歴代の個性的な図書館統括長による改革がおもしろい。すべての人に図書館が開かれていることを知らせるためのビラ配りや蔵書印の発案、20世紀初頭の女性統括長、近年でも女性の元統括長がビルとメリンダ・ゲイツ財団の国際図書館支援プロジェクトを仕切っていた。ロサンゼルスだけでなく米国の図書館が辿ってきた歴史も調べた上に、現在の図書館が抱えるホームレスなどの問題や働く司書たちの意識―それはとても前向きで驚くが―もきちんと調査している。

読んでいる最中に、昨年見た映画『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス』の場面が浮かんできた。そして図書館の可能性に思いをめぐらせ、司書たちの心持に共感した。若者担当の司書が挙げたシユバイツァーの言葉「本当に生きるには相手と向き合う必要がある」が心に響いた。(西村)

6月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



- * カレンダーの×印は休館日
- * は館内整理日、返却のみ受付 (10:00~17:00)
- * 開館時間は
10:00~18:00、
金曜日は 20:00 まで開館



地下水

緊急事態が全面解除され、図書館もやっと開館できることになった。長い間「迷惑とご不便をおかけして申し訳ありませんでした。当面の間は、図書の貸出・返却のみを中心に、長時間の滞在中もお断りすることになるが、実際に本を見て選んでもらえるようになり、ほつとしていく。

外出自粛の生活を、皆さんはどのように過ごされていたのだろうか。家にある本を読み直したり、家の片付けや手仕事、畑仕事に精をだしたり、毎朝、海岸を歩いたり。それぞれに工夫されていたが、最後には「やっぱり本がないとねえ」に落ち着く。

「近隣の図書館は開いているのに」「図書館は3密ではないでしょう」という意見も、図書館が必要とされているのだと思い、励ましの言葉と考えるようにした。

先日、新聞に、「笑顔をわすれないように」という小学生の投稿が掲載されていた。自分を振り返ってみると確かに、コロナが拡がり始めてから、心から笑うことがなくなっていたと気づいた。人類がコロナを乗り越えるには、長期戦が予想されている。感染の第2波にも備えなければならぬ。まだまだ手探りの状態が続くが、不安に負けず、できるだけ笑顔を心がけるようにしたい。必須となったマスクの下では見えないけれど。(池田)

